

一般財団法人 全国大学実務教育協会 会報

第8号
November 2012

創設された「実践キャリア実務士」について

CONTENTS

巻頭論文	2・3
平成23年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿	4
平成23年度 会長賞受賞者紹介 (No.2)	5
資格取得卒業生の声	6・7
協会からのお知らせ	8

 一般財団法人 全国大学実務教育協会
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12
第三東郷パークビル二階
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633
E-mail: jaucb@jaucb.gr.jp
PC: <http://www.jaucb.gr.jp>
携帯: <http://www.jaucb.gr.jp/mobi>



創設された「実践キャリア実務士」について



一般財団法人 全国大学実務教育協会 代表理事・副会長

自由が丘産能短期大学 学長 **森脇 道子**

「実践キャリア実務士」創設の意義

新資格「実践キャリア実務士」を創設しましたのは理事会などの意向ですが、具体的には実務・キャリア教育検討特別委員会を設け、1年近くかけてまとめました。

新資格は、「大学教育から就業へつなぐ教育課程」の重要性を捉え、実践の場における総合的な実務体験を通して、社会を知る、自分を知るとともに、課題実践力を培い、自らの能力開発やキャリアの方向性を考え、学びを継続する力を有することを証明する資格を創りたいという思いから生まれました。

本協会が実務教育に携わってから約40年たっており、その蓄積をもって今の大学教育の転換・改革に少しでもお役に立ちたい、特に就業力育成にしっかりと取り組もうと考えている大学のお役に立ちたいと考えています。

本協会の実務教育においては、職業横断的な共通能力、つまり汎用的能力と、人間力の養成を内在させて長年取り組んできました。これをキャリア教育として捉え直し、キャリア教育と実務教育を別々ではなく、あくまでも総合的な実践実務学習を通してキャリア教育を実現する教育課程として提案することとし、これを新資格「実践キャリア実務士」としました。

大学教育から就業へつなぐ教育課程

「実践キャリア実務士」という名称について、この名称だけで内容を理解してもらうことは難しいところですので、「大学教育から就業へつなぐ」というリード文をつけてこの資格の方向性や内容の強調したいところをアピールすることにしました。

前述の通り、本協会が長年取り組んだ実務教育にはキャリア教育を内在させてきたのですが、なかなか理解を得にくいので、捉え直しをして大学教育から就業へつなぐ教育として、つまりは社会人として活躍できる就業力育成にクローズアップさせた資格として「実践キャリア実務士」を提案することになりました。このようにご理解いただければと思います。

話はそれですが、ある会議で隣の席になった関西

の国立大学の学長先生が「実社会での学生の体験は、学生を成長させますね。コミュニケーション能力はやっぱり大事です」としきりにおっしゃいました。具体的にお聞きすると、おそらく社会調査が専門の学生だと思いますが、地域の人へのインタビューを授業に取り入れたのだそうです。学生達がテーマに基づいて質問を考えてインタビューに行ったのですが、とても複雑な表情で戻ってきました。学生に感想を聞いたところ「ちゃんと日本語を話してくれないと何を質問されているのかわからない」「そんな難しいことを聞かれても内容がわからないので答えられない」と、質問に答えてもらうところまで至らなかったそうなのです。学生がいろいろ考えて、3度目くらいでようやく自分たちの用意した質問に答えてもらうところまでたどりついたというのです。この学習活動をみていた学長先生からのご発言でした。

国立と私学との差もあらためて感じましたが、学部の教育で専門をしっかりとやっておけば、あとはそれを本人ができるところで応用する、きっと応用するであろう、というところで留めているのがいかに多いかということだと思いました。これからの大学の場合は、専門教育だけでなく、いかにそれを実践できるかというところまで、つまりは就業力育成のところまで視野に入れて教育する必要があると感じました。

「実践キャリア実務士」の到達目標

実践キャリア実務士の到達目標は「実社会における実践の場の課題解決学習を通して、職業生活、市民生活に対する問題意識を高め、自己理解を深める力を習得しています。そして、自ら社会的・職業的に自立するための能力開発に取り組む学習態度を身につけています」と設定しました。

教育課程の特徴として活用していただきたいポイントは「大学教育から就業へつなぐ」教育であることです。さきほどの国立大学の、専門教育をしているだけでは相手に伝わらなかったという例にあるように、学生も教職員も大学教育のなかに大学教育から就業へつなぐ教育課程を位置づけることの重要性をしっかりと認識していくことが大切です。

必修科目として「実践キャリア考」「総合実践

実務」をおいています。「実践キャリア考」は、名前のとおり実践実務活動をもとに自らのキャリアを考え、能力開発のあり方を明確にする、学びの継続力を身につける科目であり、「総合的実践実務」はチームによる課題解決活動を通じて、総合的な実践力の発揮の仕方を身につける科目です。この教育課程を大学のなかでしっかりと位置づけて実現していくのは努力が必要だと思いますが、「大学教育から就業へつなぐ」教育課程の中核は、この必修2科目に集約しています。そのほかに選択科目「キャリア・教養分野」「総合的実践実務分野」から12単位以上、計16単位以上で「実践キャリア実務士」を取得することができます。

また、テキスト「実践キャリア考」を来年発行できるように準備をしています。皆様とご一緒に事例を積み重ねていながら、この資格を進化させていければと思っています。

新資格を活用して教育改革を促進

具体的な活用ポイントとして、一つには大学の教育改革を促進することができます。大学改革のなかでカリキュラム改革をされていて、社会人として活躍するための就業力養成課程を充実させよう、きちんと位置づけようと考えている大学も増えてきていると思います。そのときにこの資格を導入していただくことで、いろいろな努力をされているものが、比較的わかりやすく位置づけられるのではないかと思います。

二つ目のポイントは、学生や企業等にわかりやすく提示することができるという点です。各大学でいろいろな努力をされていると思いますが、多様なプログラムがあるので、学生が捉えにくい、あるいは勉強したものを就職活動などに活用するときにわかりにくいということがあろうかと思っています。この資格によって学生も学ぶものが見えやすい、学んだことを自信をもって就職活動に活用しやすいと考えています。

また特に、卒業時というよりも、四年制大学においては2年次までに、短期大学においては1年次までにこの資格を取得することも可能となっていて、ここが三つ目のポイントです。

この資格は、各大学で学士力改革と銘打って取り組んでいる改革と矛盾しないのか。さらに言えば、すでに改革に取り組んでいるところに追い打ちをかけて大学設置基準が改正され、就業力を位置づけなければなりません、それをどう位置づければいいのか、一体何を考えているのかなどとご質問をいただくことがあります。

学士力の参考指針として「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」が提示されています。そのあたりから理解

しますと、あくまで個人的な意見としては矛盾するものではありませんが、学士力をアピールするだけでは就業力の観点が明確にならないと思います。ですから大学改革にとまどいを与えてしまっているのではないかと思います。

設置基準の改正については、やらねばならないということで各大学において取り組んでいることと思います。内容から判断しますと、新資格は矛盾するものではないと判断をしています。特に就職指導ではなく、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すという点において、設置基準の方向性とこの新資格は一致するものだと捉えています。

中央教育審議会答申との方向性の一致

この8月に中央教育審議会が審議をまとめ、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」が出されました。

この内容も新資格の内容にそっていると個人的には思っています。特にいま大学が果たすべき「学士課程教育の質的転換」は、学生の受動的な教育から、学生の能動的学修へと切り替えることを提言しています。教員と学生とが意思疎通をはかりつつ、学生同士が切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら成長する課題解決型の知性を鍛える双方向の授業を中心とした教育への転換です。

この能動的な学修には、授業のための事前準備、授業の受講、事後の展開といった「学修時間の増加・確保」が不可欠としています。この部分だけが取り上げられていろいろご意見が分かれたりしているところでは。

「学士課程教育の質的転換」の実現は課題解決型の能動的学修によると考えられており、「実践キャリア実務士」の基軸におく学習者中心の課題解決型学修と方向性は一致していると考えています。

学修成果をあげるための大学の課題

最後に、「実践キャリア実務士」の到達目標を達成し、学修成果をあげるための課題は何かといえます。各大学で事情は違うと思いますが、一般的に、日本の大学で次の5点が考えられると思います。①地域社会や産業界との連携・協働の推進促進 ②学士課程教育全体との融合 ③教職員の連携強化 ④課題解決型学修を担う教職員力育成のFD・SD促進 ⑤学修成果の達成度の把握です。

実践キャリア実務士をどうぞよろしく願いいたします。

(注) 本稿は、去る6月30日開催された本協会の会員校協議会における講話に一部加筆したものである。

平成23年度 実務教育優秀教員被表彰者寄稿



福島学院大学短期大学部 情報ビジネス科
准教授

小松 由美

このたびは、実務教育優秀教員として表彰をいただき、誠にありがとうございました。大変光栄に存じますとともに、身の引き締まる思いであります。学校法人福島学院理事長、福島学院大学学長をはじめ、教職員の皆様、また多くの関係者の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

私は旅行会社で商品企画や販売促進、営業事務、ランドオペレーション（ハンドリング）、添乗員教育等の業務に携わり、その後、教壇に立

実務教育優秀教員として表彰されて

つようになりました。大学では「ビジネス実務演習」「人間関係論」「インターンシップ」「秘書実務演習」「ゼミナール（社会学）」等を担当しています。働きながら学んだ経験も生かし、キャリア教育にも携わっています。

「人間関係論」ではシニアパフォーマンス・インストラクターの資格を生かし、「パフォーマンス学®」を取り入れています。日常生活で使える実践学問として位置づけ、ワークショップ形式の演習を多く取り入れています。現代社会とそこに生きる個人を取り巻く問題や状況をつかみ、他者との関わり方を学ぶと同時に、自分の善さを知り、等身大で自己表現できることを目標にしています。また強い心でポジティブに生きるためのスキルについても学修しています。

「ビジネス実務演習」では「なぜ？」と問う姿勢や習慣をつけ、主体的に物事に取り組んだり、積極的に他者へ働きかけたりできるようになるためのトレーニングを盛り込んでいま

す。1年次に「サービス接客検定」（公益財団法人実務技能検定協会）の準1級を全員で受験し取得できるようにしていることも特徴の一つです。

近年、学生はペンを持たなくなっているように思われるので、人の話を聞きながらメモをとる習慣をつけさせるよう、授業ではあえてパソコンを使わずにホワイトボードに書き、学生の手を動かすようにしています。最初は慣らすために重要なことは何度か繰り返して話しますが、ホワイトボードに書く量を徐々に減らし、学生の聴く力と集中力を高めるように意識して実践しています。2年次には学生の手が驚くほどよく動くようになります。また、授業はできるだけ学生と対話しながら進めるように心掛けています。

短大二年間は本当に短いですが、学生生活の中で自らの可能性と将来の方向性を見出し、自らの足でしっかり歩んでほしいと考え、指導にあたっています。



梅花女子大学 心理こども学部
教授

倉掛 妙子

(前夙川学院短期大学)

この度は、全国大学実務教育協会より、実務教育優秀教員として表彰を賜り、身に余る光栄に存じます。学生達が保育音楽療育士として、さらなる目的意識、意欲を持ち保育現場で活躍していることが何よりの喜びでございます。

夙川学院短期大学は平成16年より「保育音楽療育士」を養成する専攻科（保育専攻）を設けております。発達の視点を入れながら保育と音楽療育に関して知識と技能をそなえた、障害児の専門職としての人材養成を目指すことを目標に取り組みしました。

保育音楽療育士養成に関わって

私は十数年前に「音楽療法」に出会い、「音楽の特性」を使って研究や学生の養成に力を注いでまいりました。当初は保育者が行う音楽療育について、協会本部や実施しておられる大学の情報をいただきながら、本学学生にあったカリキュラムや指導方針作成に没頭したことを思い出します。

・本学の特徴

カリキュラムの見直しを通して、保育に必要な「音・図・体」の科目、時間数を大幅に強化しています。内容についても保育を重視したものになっています。

・実習先の開拓

特に初年度は実習先の開拓に奔走しました。実家から実習先に通う学生が多いため、数多くの実習先を確保する必要があります。実習生が伺わない年も丁寧にご挨拶し、次年度以降の実習に備えました。

・実習およびボランティア

前期には実習の一環として児童、高齢者等の施設で後期の本実習にむけたボランティアを行うことにしています。（最終日に音楽療育活動を実施）さらに各人でボランティア先を開拓し、障害児・者との関わり方

をより深く学ぶよう指導しています。

本実習では児童施設に加え高齢者施設の实習に力を注ぎ、学生の視野を広め音楽療育の可能性を追求するとともに、就職先の選択肢拡大につなげています。

・ピアノの指導

未経験者のためのピアノ指導を充実させています。具体的には、リズムの把握、コード奏、メロディーの表現法などですが、療育楽器などを活用してピアノだけに頼らない保育方法も導入しています。さらに、「図」の紙しばいに音楽を加え表現力を高めるなどの工夫を行っています。

学生を養成するためには教員自身が音楽療育の現場を知らなくてはなりません。私自身音楽療法のボランティアを15年前から継続的に実施しています。その中で得た対象児・者との関わり方、活動の流れの工夫、選曲、楽器の使い方など多くの情報を学生に還元することができました。またこの活動は実習先・就職先の確保にも役立っています。

最後に、保育音楽療育士の基本理念を理解し即戦力としての保育力を高めた学生の養成に今後も邁進する所存です。

平成23年度 会長賞受賞者紹介 (No.2)

No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名	No.	資格名	大学名	学部・学科名	氏名
1		大阪国際大学	人間科学部	中村 由麻	39		金城大学短期大学部	ビジネス実務学科	岡田 沙穂
2		札幌国際大学短期大学部	総合生活学科	伊倉 里菜	40		岡崎女子短期大学	経営実務科	家田あかね
3		拓殖大学北海道短期大学	経営経済科	畑澤 克利	41		滋賀短期大学	ビジネスコミュニケーション学科	万永奈津美
4		聖和学園短期大学	キャリア開発総合学科	高橋 りさ	42	上級秘書士	近畿大学短期大学部	商経科	岩崎 那理
5		仙台青葉学院短期大学	キャリアデザイン学科	飯泉 京子	43		プール学院大学短期大学部	秘書科	辰嵐 美香
6		聖霊女子短期大学	生活文化科	伊藤 知子	44		安田女子短期大学	秘書科	松本 麻希
7		東北文教大学短期大学部	総合文化学科	堀 響子	45		四国大学短期大学部	ビジネス・コミュニケーション科	太居 佑紀
8		桜の聖母短期大学	英語学科	石田 真弓	46		高松短期大学	秘書科	橋本 彩香
9		桜の聖母短期大学	生活科学科	酒井 美和	47		松山東雲短期大学	秘書科	白尾 歩実
10		福島学院大学短期大学部	情報ビジネス科	八木ありさ	48		鹿児島純心女子短期大学	生活学科	橋口 綾美
11		自由が丘産能短期大学	能率科	金丸由香里	49		札幌国際大学短期大学部	総合生活学科	林 世奈
12		湘北短期大学	情報メディア学科	川元 那萌	50		自由が丘産能短期大学	能率科	影山 希愛
13	ビジネスマン	新潟青陵大学短期大学部	人間総合学科	八田真里杏	51		目白大学短期大学部	ビジネス社会学科	有塚 成望
14		富山短期大学	経営情報学科	川尻 彩加	52		信州短期大学	総合ビジネス学科	横山 碧
15		仁愛女子短期大学	生活科学学科	伊藤 友里	53		修文大学短期大学部	生活文化学科	水橋 早紀
16		愛知学泉短期大学	生活デザイン総合学科	野尻 友紀	54		名古屋女子大学短期大学部	生活学科	村上 玲衣
17		岡崎女子短期大学	経営実務科	小澤未都稀	55	秘書士	大阪国際大学短期大学部	ライフデザイン総合学科	大山 美咲
18		高田短期大学	オフィス情報学科	細川 清美	56		大阪成蹊短期大学	観光学科	中村 早希
19		京都光華女子大学短期大学部	ライフデザイン学科	齊藤 衣織	57		関西外国語大学短期大学部	英米語学科	木村 真紀
20		大阪キリスト教短期大学	国際教養学科	北庄司千晶	58		関西女子短期大学	保健科	森井 陽香
21		大阪成蹊短期大学	経営会計学科	富園ひかり	59		四天王寺大学短期大学部	生活ナビゲーション学科	若杉英里香
22		四條畷学園短期大学	ライフデザイン総合学科	榎谷友梨香	60		神戸女子短期大学	総合生活学科	岩崎 来未
23	プール学院大学短期大学部	秘書科	名越 秀佳	61	就実短期大学		生活科学科	秋山 梨沙	
24	大手前短期大学	ライフデザイン総合学科	相楽なつき	62	精華女子短期大学		生活科学科	喜瀬 琴美	
25	鳥取短期大学	生活学科	舟木 陽香	63	長崎女子短期大学		生活科学科	太田 あい	
26	鳥取短期大学	国際文化交流学科	安部 葉月	64	大分県立芸術文化短期大学		国際文化学科	長尾 優希	
27	中国短期大学	総合生活学科	草地 未来	65	南九州短期大学	国際教養学科	櫻木 裕子		
28	山陽女子短期大学	人間生活学科	大迫 有起	66	鹿児島純心女子短期大学	生活学科	有水 縁		
29	四国大学短期大学部	ビジネス・コミュニケーション科	松浦 真希	67	沖縄キリスト教短期大学	英語科	仲村渠早紀		
30	精華女子短期大学	生活科学科	村上ちひろ	68	沖縄女子短期大学	総合ビジネス学科	安田 美咲		
31	東筑紫短期大学	美容ファッションビジネス学科	南野 莉沙	69	秘書士(国際秘書)	神戸松蔭女子学院大学	文学部	高見 利華	
32	鹿児島純心女子短期大学	生活学科	永田あやの	70		常磐短期大学	キャリア教養学科	宮崎 夏美	
33	鹿児島女子短期大学	教養学科	橋本 夕依	71		鹿児島純心女子短期大学	英語科	中別府久恵	
34	沖縄女子短期大学	総合ビジネス学科	金城さあや	72	秘書士(メディカル秘書)	愛知学泉短期大学	生活デザイン総合学科	林 早紀	
35	札幌国際大学	人文学部	番場由美子	73		修文大学短期大学部	生活文化学科	江坂 莉奈	
36	近畿大学	経営学部	賛田久美子	74		名古屋学芸大学短期大学部	現代総合学科	藤谷 知美	
37	神戸松蔭女子学院大学	文学部	正心 綾	75		松山東雲短期大学	秘書科	奥田 光理	
38	常磐短期大学	キャリア教養学科	白鳥 愛	76		鹿児島純心女子短期大学	生活学科	砂坂 美帆	

大学名、学部・学科名は平成24年3月31日現在である。

資格取得卒業生の声

上級情報処理士



京都女子大学 現代社会学部 現代社会学科
平成23年度卒業

大久保 聡美さん

今回の取材に応じていただいた大久保様は、三井住友海上火災保険株式会社に勤務され、営業支援部門の業務をご担当されています。上級情報処理士の取得において大学で学んだ理論と実践を活かしてご活躍されている様子がインタビューから伺えました。

学生時代に大久保様を指導された京都女子大学現代社会学部の水野義之教授のご協力により、インタビュー取材をさせていただきました。

Q：大学で「上級情報処理士」を希望したのは、どのような動機からですか？

A：情報化社会と呼ばれる現代社会において、情報処理の基礎知識を身につけると共に、ビジネスで役に立つ技能を修得したいと思ったからです。学生のうちに情報処理の専門知識を身につけることで、社会に出た際の可能性が広がると期待しました。

Q：現在、大学で「上級情報処理士」の資格を取得しておいて良かったと思いませんか？

A：多くの情報が飛び交う社会のなかで、必要な情報を効率よく入手し、取捨選択して情報を活用できるスキルが身に付いたと思います。新しい情報をすぐに鵜呑みにするのではなく、まず自身で考え、疑うことも必要だと学ぶことができ、大変良かったです。

Q：現在の仕事をやるうえで、「上級情報処理士」の資格はどのように役立っていますか？

A：Excelの基礎と応用の活用法が数値データを分析する際に役立っています。日々の業務はPCを用いたデスクワークがメインであるので、慣れ親しんでいる分、苦痛に感じることなく業務に努めることができている。

Q：大学で学んだ「上級情報処理士」の科目の中で特に役立っている科目はありますか？

A：「データ処理論」「学術情報総論」という科目です。質問紙調査のデータ分析方法や情報を集める際のツールを学びました。データ処理・分析においては、集計したものを第三者にいかに分かりやすく、説得力のあるものとして伝えるかについて工夫しました。データの種類によってどの種類のグラフを選択するかによって与える情報の価値が変わってきます。情報・データを活用する方法を基礎から学ぶことができ大変役立ちました。

Q：「上級情報処理士」の科目の中で、不足していると感じる分野はありますか？また、すでに学んだ「上級情報処理士」の教育課程について、何か思うことはありますか？

A：資格取得にあたり、充実した講義内容であったため、不足していると感じる部分はありません。情報をいろいろな目線でみた科目があり、分野も多岐にわたっていたように思います。その分、興味を持ち積極的に取り組むことができました。プログラミングに関しては、少し難しい部分もありましたが、少人数の講義で熱心に指導いただいた分、理解も深まりました。多くの生徒が躓く部分は講義環境や講師の方の配慮等も必要かと思いました。

Q：後輩の皆さんへのアドバイスはありますか？

A：何事においても恐れず挑戦してほしいです。資格取得に向けて言えば、私の場合、プログラミング演習で一度躓いてしまい、そこから避けるようになった時もありました。しかしもう一度理解してみようとやり直し、挑戦することで、新たな発見や不安部分も解消されたように思います。興味を持ったことはやってみることが大切だと思います。はじめから自分の能力を決めつけるのではなく、まずはやってみる。自分自身も出会ったことのない新たな自分を見つけ出す良いチャンスかもしれません。学生時代は一生に一度です。悔いの残らない充実した毎日を送ってほしいです。

Q：将来の目標としていることがあれば教えてください。

A：誰からも頼りにされるキャリアウーマンになること。今はまだ新入社員で先輩に助けられてばかりですが、資格取得の過程で身に付けた情報処理能力をさらに向上させたいです。いつかは人前で堂々とプレゼンテーションをし、人々を魅了できるような一人前の社会人として成長したいです。

大久保様の指導をされた水野義之教授に学生時代の印象をお伺いしました。

大久保さんは、私のゼミ生ではなく、1回生の情報系共通科目でたまたま私が教えたという関係です。しかしなぜか大変、印象に残っておりました。それは姿勢のことです。

共通科目というと、教師が話をしても余所事をしていく学生もいる中で、大久保さんは常に（という印象です）こちらを見て、首をかしげながら（疑問を持ちながら）何かを学び取ろうとしている姿勢が、非常に印象的でした。心構えという言葉もありますが、この構えが出来ている学生という印象でした。

一般に何かの形というものには、あらゆる文化が詰まっていると思います。人の持つ「姿勢」も同様で、この部分を簡単に伝えることは出来ないし、それ自体は目に見えないし、それを学ぶことも難しいかもしれません。しかしこの姿勢というものは、学びの過程においても非常に重要だと、改めて思った次第です。

大久保さんには今回、突然の依頼を受けていただき、感謝します。あらためまして卒業生各位のご健闘を祈ります。

京都女子大学の水野義之教授には、急なお願いにもかかわらず大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。
(石田みゆき記)

資格取得卒業生の声

関西空港の国際線チェックインカウンターでグランドスタッフとして勤務されている清水麻衣様を勤務先のANA関西空港株式会社にお訪ねしました。清水様は神戸松蔭女子学院大学文学部英語英米文学科を平成24年3月に卒業されました。

このたびはANA関西空港株式会社の特段のお取り計らいにより、勤務時間内の貴重なお時間を頂戴してお話を伺うことができました。感謝申し上げます。

秘書士(国際秘書)



神戸松蔭女子学院大学 文学部 英語英米文学科
平成23年度卒業

清水 麻衣さん

Q：大学で「秘書士(国際秘書)」の取得を希望したのは、どのような動機からですか。

A：英語を使って資格が取れること、英語を使うことを目的とした資格であったことが動機でした。中学の頃からグランドスタッフの仕事にあこがれていましたので、英語を学びたい気持ちでいっぱいでした。

Q：現在、大学で「秘書士(国際秘書)」の資格を取得しておいて良かったと思いますか。

A：資格を取得したことで接遇を学ぶことができました。国際秘書の仕事ではありませんが、接遇の大切さはグランドスタッフの仕事も同じだと思います。お客様の気持ち、希望されていること、状況などを考えてお客様と接すること、相手の気持ちを読み取れることでコミュニケーションが初めて成立するのではないのでしょうか。

Q：大学の「秘書士(国際秘書)」の科目の中で特に役立っている科目はありますか。

A：早い段階で学んだのでそれぞれの授業をはっきりとは覚えていませんが、「バイリンガルオフィスワーク」を挙げることができます。接遇の他にもその時は気が付きませんでした。仕事をやるうえでの心構えや手順を身に付けることができました。繰り返になります。また、「バイリンガルオフィスワーク」の授業で相手の立場になって考え行動することからお客様と接する際の心構えや姿勢を学びました。

Q：大学の「秘書士(国際秘書)」の科目でなお不足している分野はありますか。すでに学んだ「秘書士(国際秘書)」の教育課程に希望はありますか。

A：グランドスタッフの仕事は国際秘書の仕事とは違いますので、国際秘書からのお話しはできませんが英語を使って仕事の世界を実践的に学ぶことができました。特に不足していることはないと思います。

Q：後輩に何か助言することはありますか。

A：どのような仕事においても役立つこととして、学生時代に社会人としてのマナーと敬語の使い方を身

につけておくことをお勧めします。

Q：自分が将来目標とするものがありましたら教えてください。

A：今は日系エアラインの国際線担当ですが、将来は会社が受託している外国エアラインを担当できたらと考えています。最近、エアラインによって習得すべきスキルや知識は違ってきます。複数のエアラインを今後担当して、サービスの考え方や行動のあり方などを経験したいと思います。

学科長で秘書課程担当者の福田洋子先生のコメント

清水麻衣さんは、2011年度英語英米文学科の卒業生です。積極的で計画性もあります。3年終了時には、必要単位を修得し秘書士(国際秘書)資格の認定を受けました。その際、学業優秀であり、秘書としての資質を備えた国際的な感覚を持つ学生ということで、協会から会長賞をいただきました。英語を学ぶことに熱心で、ネイティブ・スピーカーの先生方と学内で会話ができる「イングリッシュ・アイランド」をよく活用し、楽しみながら英語力をアップさせたようです。すばらしい笑顔、ホスピタリティにあふれた親しみやすい人柄でもあります。結果的に、国際秘書の仕事には就きませんでした。学科専門教育科目(特に英語科目)・秘書課程で得られた知識・スキルを活かすことができる、そして、「夢」であった国際線カウンターのグランドスタッフになりました。女性が長く働く時代です。今後は、後輩たちの目標の一人として輝くと同時に、次の「ビジョン」をめざし、前進して欲しいと思います。

手続きカウンターで同郷だとわかったお客様とお話はずんだため、ご利用いただいたことへの御礼を書いたメッセージカードを搭乗口で差し上げたところ、びっくりされ後にとても喜んでくださったことに感動されたこと、第二外国語で取り組んだ中国語が搭乗手続きの際に役に立っていること、学生時代は学業に加えて大学の様々な行事に積極的に参加されたことなどをお話しくれました。何かお手伝いできることはありませんかと目が問いかける満面の笑みに、充実した学生生活で得られた達成感が豊かさとなって溢れていました。(有働壽恵記)

◆平成25年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限◆

平成25年度の新規入会及び新規教育課程認定等の申請提出期限は、平成25年1月25日(金)です。

本協会は、平成25年度から新資格として「実践キャリア実務士」ならびに従前から認定している三資格(上級を含む秘書士・ビジネス実務士・情報処理士)のリニューアルを行い、これを新しい資格[®]として創設しましたが、これらの新しい資格についての教育課程の認定申請も上記提出期限によります。

また、従前からの三資格(上級を含む秘書士・ビジネス実務士・情報処理士及び秘書士(国際秘書)、秘書士(メディカル秘書))の新たな教育課程の申請は原則として平成25年1月25日(金)をもって終了となります。

すでに承認を受けている従前からの資格教育課程の変更(科目の追加・削除、科目名の変更、協会承認の◎印の専任教員の変更等)についても従前の様式により上記提出期限までに申請し、変更の実施前に承認を得る必要があります。

◆大阪フォーラム「いま、キャリア教育を考える～大学教育から就業へ～」を開催◆

本協会は、平成25年度から導入する新資格「実践キャリア実務士」の創設を記念して、去る9月8日、大阪市の大阪ガーデンパレスにおいて大阪フォーラム「いま、キャリア教育を考える～大学教育から就業へ～」を開催しました。

この大阪フォーラムは、本協会初のフォーラムであり、全国から関西を中心に約100人が参加し、基調講演、提言、新資格の説明、パネルディスカッションが行われ、大学教育におけるキャリア教育のあり方に深い示唆を与え、新資格「実践キャリア実務士」の有効性と先進性を明らかにするものとなり、参加者に感銘を与えたフォーラムになりました。



◆「実践キャリア考」テキストを発行◆

本協会では平成25年度から導入する新資格「実践キャリア実務士」の必修科目のテキストとして「実践キャリア考」を発行する予定です。

本書は、前半(第1章及び第2章)を初年次教育等で活用し、後半(第3章～第5章)を自己理解及び大学・短期大学入学後の体験等のまとめとして活用することを意図しています。

執筆リーダーは大宮登氏(高崎経済大学副学長)に依頼し、出版社は実教出版(株)、2013年4月30日の出版を予定しています。

◆「サービス実務入門」テキストを発行◆

本協会では平成25年度から導入する新資格「上級ビジネス実務士[®](サービス実務)」の必修科目「サービス実務総論」及び「サービス実務演習」のテキストを発行する予定です。

本テキストの執筆は、日本ビジネス実務学会に研究委託し、日経BP社から平成25年度の新学期に間に合うよう出版を予定しています。

平成25年度から本協会が導入する「上級ビジネス実務士[®](サービス実務)」は、モノの生産によって日本の経済を支えてきた時代から、サービスの創造によって日本の経済を支える時代に移行してきた社会の変化に対応して導入する新資格です。

◆平成24年度実務教育優秀教員被表彰者の推薦期限◆

本協会では、本協会が定める資格認定関連科目を担当する教員で、学生による授業評価が最高水準であり、また研究や社会的活動の分野において実務教育の充実向上に貢献する業績を挙げている会員校の教員を当該大学の学長の推薦にもとづき「実務教育優秀教員」として表彰しています。

なお、被表彰者は本協会の事業報告書、ホームページに掲載し、広く一般に公表しています。

平成24年度の実務教育優秀教員の推薦受付は平成25年2月15日(金)から3月15日(金)までです。

◆企業等向けメディアに対する広告掲載◆

本協会が認定している資格について企業等の認知度を高めるため、平成24年度において下記のとおり企業等に向けて広告を掲載いたしました。

会員校における学生の就職活動あるいは学生募集対策などにもご活用いただければ幸いです。

掲載誌・紙	掲載号	掲載資格
日経ビジネス	平成24年10月1日号(51頁) 平成24年11月5日号(111頁)	実践キャリア実務士他13種
福祉新聞	平成24年9月3日号(1頁) 平成24年10月1日号(4頁) 平成24年11月5日号(5頁)	園芸療法士
全私学新聞	幼稚園特集号 平成24年8月3日号(1頁) 平成24年9月3日号(1頁) 平成24年10月3日号(1頁) 平成24年11月3日号(1頁) 平成24年12月3日号(予定) 平成25年1月3日号(予定)	子ども音楽療育士

◆よくある質問「新資格」Q&A ホームページに掲載◆

本協会は、平成25年度から新資格「実践キャリア実務士」ならびに「三資格(上級を含む秘書士[®]・ビジネス実務士[®]・情報処理士[®])」認定制度の創設をいたします。

会員校の皆様から事務局に新資格導入に伴う質問が連日多数寄せられていますので、これらの質問をまとめて「よくある質問『新資格』Q&A」として、このほど会員校にお届けするとともに本協会のホームページに掲載しました。

【新資格】【現行資格】【手続等】などを27項目に分け、会員校からの質問を網羅し対応したものですので、どうぞご活用ください。

◆日本ビジネス実務学会「きく・話す」教育指導法セミナーを開催◆

日本ビジネス実務学会は、「きく・話す」教育指導法セミナーを次の日程で開催します。

このセミナーは、学士力、社会人基礎力でも重要とされている「コミュニケーション力」のなかで、「きく・話す」の教授方法を学ぶセミナーです。

このセミナーでは「きく力」に焦点をあてての教授法を取り扱います。

日時：2013年2月24日(日)10:20～17:00

会場：大手前大学・短期大学 いたみ稲野キャンパス

問い合わせ先：日本ビジネス実務学会 セミナー委員会(担当:大島)

E-mail:t_oshima@bas.t-kougei.ac.jp

◆平成24年度3月期資格認定証の授与スケジュール◆

平成24年度3月期の資格認定証の授与スケジュールは下記のとおりですので、期日厳守をお願いします。(すでに実施済を含む。)

なお、生年月日は原則として西暦で記入することになっています。(平成24年)

- 10月25日 協会→各大学 資格認定に関する調査表提出依頼発送
- 11月5日 各大学→協会 資格認定に関する調査表提出メチ
- 調査表受領後 協会→各大学 資格認定に関する申請手続発送
- 12月5日 各大学→協会 資格認定証授与予定者名簿等提出、申請料納付メチ
- 確認後随時 協会→各大学 申請書類等の受理発送
(平成25年)
- 1月11日 協会→各大学 授与予定者リスト校正依頼等発送
- 1月25日 各大学→協会 授与予定者リスト校正結果(訂正連絡票)、単位認定教授会・卒業式日程提出メチ
- 確定後随時 各大学→協会 資格認定単位修得確定報告書
※卒業式までに土日を除き5日以内の場合は即日FAX送信してください。
- 随時 協会→各大学 資格認定証発送
- 随時 各大学→協会 資格認定証受領書提出